

ISO 80369-3 経腸栄養関連コネクタ製品への切り替えにおける注意点

一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会 (JSPEN) より ISO 80369-3 コネクタの導入に際し、以下の5つの点について注意が必要であることについて、提起します。

注意点1：新旧コネクタ使用に際シアダプタが必要

新規格 ISO 80369-3 対応コネクタと従来の医薬発第 888 号対応コネクタは接続ができません。新規格コネクタ製品への切り替えが開始されてからしばらくの間は、投与側と留置側で使用するコネクタ規格が異なる場合が想定されます。そのため、この期間においては、新旧コネクタを同時に使用するための変換アダプタが必要となります。

注意点2：オス型コネクタのロック部の汚染

オス型コネクタがロック式になっているため、オス型ルアー一部とネジを有するフード部との間に栄養剤が滞留することでその部分が汚染され、感染リスクが高くなる可能性があります。そのため、洗浄方法については各社から提供されている情報を参照するようにしてください。

注意点3：微量注入が困難

ISO 80369-3 に対応する注入器・シリンジの先端はメス型コネクタ形状となるため、従来の医薬発第 888 号対応コネクタの先端形状（オス型）よりも口径が大きく、結果としてデッドスペース（DS）も大きくなっています。

そのため、注入器・シリンジを用いて微量注入を行う際の投与精度が従来品と比較して著しく悪くなる点に注意が必要です。

注意点4：薬液の吸引が困難

ISO 80369-3 対応の注入器・シリンジで薬液を吸引する場合、その形状に起因して、全量を吸引することが困難であり、そのため残液した薬液に無駄が生じる点や正確に計量できない点などに注意が必要です。

注意点5：栄養剤の吸引が困難

ISO 80369-3 対応の注入器・シリンジで栄養剤を吸引する場合、特に半固形化栄養剤の場合においては、メス型コネクタ外側のネジ部に付着した栄養剤を拭き取ることが難しい点、ならびに外側の栄養剤が拭き取れたとしてもメス型コネクタ内側、すなわちオス型コネクタと嵌合する部分に栄養剤が溜まっており、そのまま接続してしまうとオス型コネクタ側を汚染する点に注意が必要です。